









(3) 拡張性を考慮したシステムを作成する

(4) 初版は HITAC10 II/A のハードディスク上に作成する

以上のような方針のもとで作成したシステムのソフトウェア構成を図 5 に、データ構造を図 6 に示す。

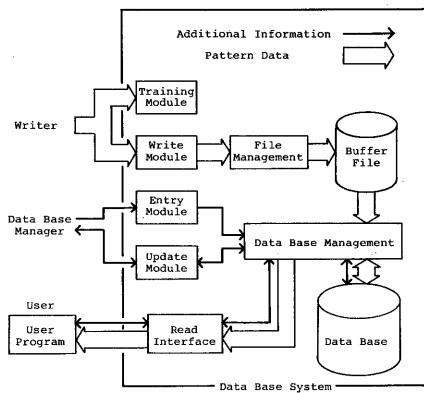


図 5 データベースのソフトウェア構成

データ構造としては階層構造をなしており、上位より記入者、ページ番号、文字コード (JIS コード) 、データ実体の階層を持つ。その中のページという階層は、データベースの文字収集の際に用いる原稿用紙に対応しており、この用紙 1 ページ分の情報をページとして管理単位の基本としている(図 7)。

ソフトウェア構成としては、文字データ記入者、データベース管理者、データベース利用者に対して、次の機能を設けた。

(1) 文字データ記入者に対する機能

(a) 訓練モジュール：システムを初めて使用する記入者は、タブレットに不慣れである。タブレットの使い勝手に慣れてもらうために文字の試し書きを行なう。

(b) 記入モジュール：記入者に文字を手書き入力をしてもらい、そのデータを一時バッファファイルに格納する。

(2) データベース管理者に対する機能

(c) 登録モジュール：バッファファイルに格納されたデータを、システム管理者が付帯情報とともにデータベースに登録する。

(d) 更新モジュール：システム管理者が、登録してある文字データをモニタしたり、付帯情報を変更、削除したりする。

(3) データベース利用者に対する機能

(e) 読み出しインターフェース：利用者プログラムが、データベース内の文字パターンを読み出すのに使用するインターフェースである。本データベースでは標準読み出しとして 1 ページを単位とする読み出しを設けている。

現在の HITAC10 II/A システム上において、2.5 メガバイトの容量を有するカートリッジ・ディスクを 2 パック用いて約 10,000 文字のデータを収集することができるようになっている。

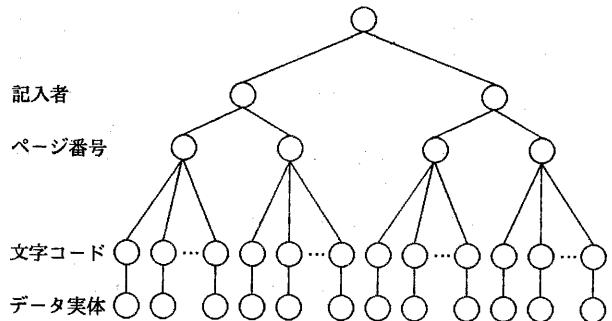


図 6 データ構造

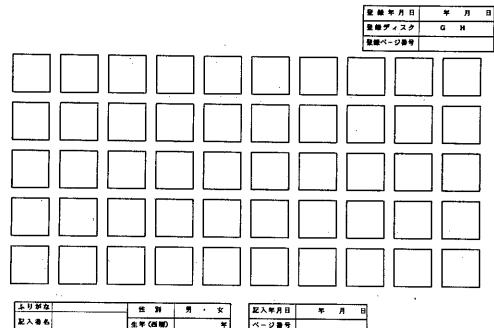


図 7 データベース原稿用紙









